

## PRESS RELEASE

## 【情報提供】知多半島総合医療センターは医療DXを強力に推進 -音声認識システムと自律式搬送ロボットの導入成果について-

知多半島総合医療センターでは、地域の急性期医療を支える総合病院として、24時間多様な患者さんの診療にあたっています。医療の質の向上や医療スタッフの負担軽減による医療資源の有効活用に向け、当院が推進する医療DXの取組についてご報告します。

【導入設備①】音声認識システム（株式会社アイシン：YYsystem） 令和7年4月～

【概要】株式会社アイシンが開発した音声認識システムで、患者相談等でタブレットを使い、聞き取り・説明をリアルタイムかつ自然な日本語で文字表示することが可能です。視認できることで聴覚障がい・高齢・外国籍の患者さんなど、コミュニケーションに工夫が必要な方と、静かな環境でも確実な意思疎通が可能となります。

【導入効果】文章で確認できることにより患者さんの理解度も上がり、コミュニケーションの質が大きく向上するとともに、聞き返しや再説明が減り、スタッフの負担が軽減され、より専門的ケアに集中できる環境が実現できました。さらに、普通に話すだけで正確に文字化できメモとして記録することができるため、カルテ記載の精度も向上しました。

【導入設備②】自律式搬送ロボット（オムロン株式会社×株式会社タマディック） 令和7年4月～

【概要】オムロン株式会社と株式会社タマディックが共同制作し、株式会社Octa Roboticsの設備連携インターフェースによって院内の構造に合わせた稼働が可能なロボットです。24時間物品搬入を担います。

【導入効果】外来フロアにて画像CD運搬や薬局と各病棟間の薬剤運搬という物品搬入という単純作業をロボットに任せることで、スタッフが「人対人」のケアやより専門性の高い業務に専念することができるようになりました。現在は、夜間の薬剤運搬を実施しています。今後、運用範囲を拡大していく予定です。

【その他】上記以外にも、生成AI（Ubie株式会社）の活用、通院支援アプリ（富士通）の導入、生体情報自動送信（電子カルテ連携）など、様々な取組を行っています。

取材に来られる際は、事前に下記までご連絡ください。

### 知多半島総合医療機構 経営企画課 企画担当者

何事にもまずはチャレンジという精神で新病院では新たな設備を導入し、着実な成果が生まれています。当院では引き続き医療DXについての検討、導入、実践に取り組んでいきます。

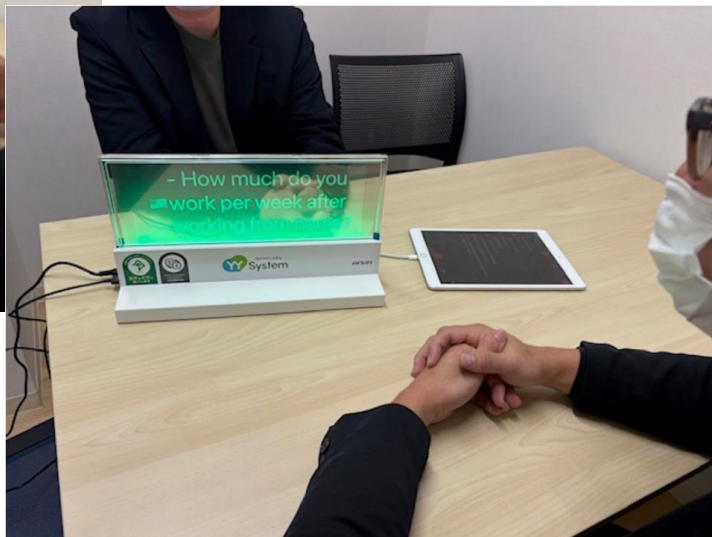
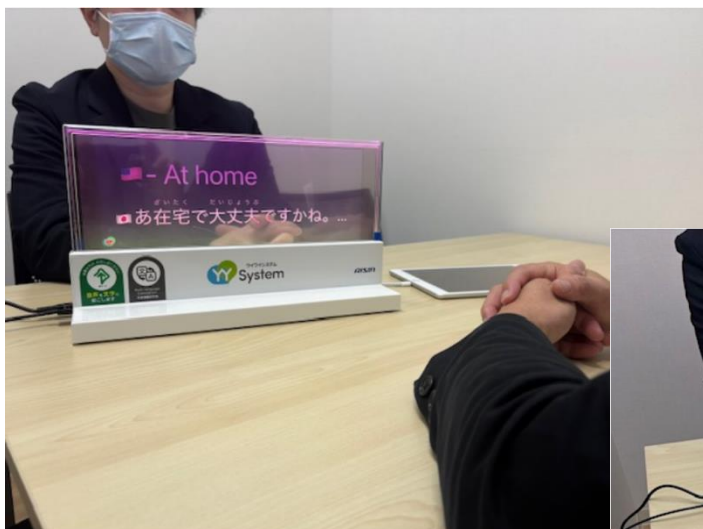
### 事前連絡・お問い合わせ先

地方独立行政法人知多半島総合医療機構 TEL 0569-89-0515（内線 2932）

経営企画課 企画・財政係 担当:木村・知崎 mail [kikaku.zaisei@chitahantogmo.or.jp](mailto:kikaku.zaisei@chitahantogmo.or.jp)

参考

【導入設備①】音声認識システム（株式会社アイシン：YYsystem） 令和7年4月～



【導入設備②】自律式搬送ロボット（オムロン株式会社×株式会社タマディック） 令和7年4月～

